

認知症を心配しているあなたへ

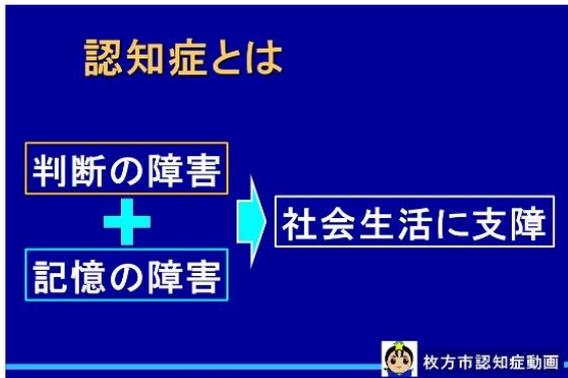
「認知症が心配なもの忘れ」

星ヶ丘医療センターもの忘れ外来 医師 森 敏

どなたでも40～50歳になると、「人の名前が出てこない」「物の名前が出てこない」などもの忘れが始まります。これらのもの忘れには、「放っておいてもよい“良性のもの忘れ”」と「認知症の初期症状が疑われる“悪性のもの忘れ”」があります。

この動画では、両者の違いについてわかりやすく解説します。もしかして認知症では？と心配されている方は、是非ともご覧になって下さい。

①



【認知症とは】

認知症は、「記憶の障害に判断の障害が加わり、仕事や日常生活に支障が出てきた状態」を言います。

記憶の障害と判断の障害は同時に起こるのではなく、まず、悪性のもの忘れのみが現れます。

そのため、「放っておいてもよいもの忘れ」と「認知症の前ぶれであるもの忘れ」を見分けることが重要になってきます。

②

“良性のもの忘れ” vs “悪性のもの忘れ”

良性のもの忘れ	悪性のもの忘れ
体験の一部を忘れる	全体を忘れる
進行しない	進行する
自覚している	自覚していない

【良性のもの忘れと悪性のもの忘れを見分けるポイント】

認知症の前段階である悪性のもの忘れの特徴を一言で言い表すと、「すっかり忘れている」ということです。

また、「進行する」「忘れていることを自覚できない」ということも特徴です。

③

“良性のもの忘れ” vs “悪性のもの忘れ”

良性のもの忘れ



記憶の帯

悪性のもの忘れ



枚方市認知症動画

【良性のもの忘れと

悪性のもの忘れのイメージ】

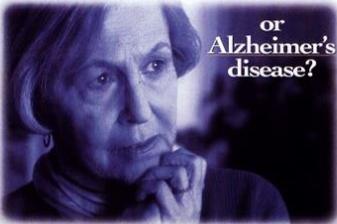
人は、物心ついた頃より記憶の帯が連綿と続いており、これこそが人生です。

しかし、悪性のも忘れは、その一部がすっぽりと抜け落ちてしまいます。

④

悪性のも忘れ:「同じことを何度も尋ねる」

Is it just forgetfulness...



• Memory loss • Asking repeated questions • Trouble using words

枚方市認知症動画

【単なるもの忘れか

アルツハイマー病か】

悪性のも忘れの特徴として、「同じことを何度も尋ねる」ということがあります。直前の聞いたことは記憶に残らず、忘れてしまいます(言葉のキャッチボールはできません)。

⑤

認知症への道のり

良性のもの忘れ

悪性のも忘れ

判断の障害

健常

軽度認知障害

認知症

枚方市認知症動画

【認知症への道のり】

40~50歳になるともの忘れが始まり、やがて悪性のも忘れがまじってきます。

しかし、まだ判断の障害はありません。この状態を認知症の前段階、軽度認知障害と言います。

時間の経過と共に悪性のも忘れが増え、判断の障害も現れてきます。日常生活に支障が出てくるようになると、認知症と診断されます。

お問い合わせ先 枚方市医師会

枚方市地域健康福祉室

健康福祉総合相談担当

電話：072-845-0252

FAX：072-544-4588

電話：072-841-1401

FAX：072-841-5711